

名古屋男声合唱団 団内誌



Agora

第 31 号



2024. 9. 15

◆第31号目次 ◆

◆ 新指揮者安田良宏さん挨拶	T1. 安田良宏	— 1—
◆ ミミズ！どうする？	B1. 福井 稔	— 2—
◆ 45年ぶりのフォルクローレ演奏復活の舞台裏	B1. 森島正明	— 3—
◆ 非常時連絡先	B1. 稲守宏夫	— 5—
◆ 趣味たちとの出会いと今	T1. 豊田滋夫	— 8—
◆ AIによる「連帶の歌」の翻訳	B1. 川口元一	—12—
◆ 仏教 よもやま話	B2. 松田昌展	—15—
◆ 白い道、名古屋の道	B2. 藤田 仁	—16—
◆ 編集後記		—22—

注) 他にも阿智演奏会関連で寄稿していただいたものがありますが、次回の演奏会関連のものとまとめて掲載させていただきます。

新指揮者 T1 安田良宏さん挨拶

安田良宏さん挨拶

指揮は卒団以来 40 年ぶりで、至らぬところばかりかとは思いますが、皆様と素敵な演奏を楽しく作り上げられるよう頑張ります。何とぞ、ご指導のほど宜しくお願ひいたします。

【補足】隣家が 200m 離れている里山育ち。山越えで徒步通学し、小5からコードでクラシックギターを練習し、井上陽水を経て、高校では弱小混声合唱団で歌い、その流れで名混を覗いた後、男声入団。毎日大学へ行くも授業は出ず、5年通った後、大好きだったソニーへ入社。厚木、一宮、カリオルニア、品川、バルセロナ、イギリス、テキサス、メキシコ勤務での経験を活かし、現在は技術コンサルタント、設計、子供向けプログラミング指導、シルバー人材センターなど。趣味は下手なゴルフ。

編集者注) 9月15日練習日に初めて安田さんが、「君を乗せて」を指揮します。

安田さんは 1978 年名大男声入団で、下記の定演で指揮されています。

第 26 回定演(1980.1.15 愛知県勤労会館)

Ⅱステージ「愛唱曲」(指揮:小柳賛平 安田良宏)

こがらしの中を、自由をめざして、Go Down Moses(黒人靈歌)、鉄路、見果てぬ夢

第 27 回定演(1981.1.15 名古屋市民会館大ホール)

Ⅱステージ「中南米の音楽」(指揮:安田良宏 大村 恵)

赤道直下、プレシオーサ、魂は旗に満たされて、トウクマンの月、民衆の樹木、みんな一緒の歌

Ⅲステージ「日本民謡」(指揮:安田良宏)

大漁うたいこみ、南部牛追歌、刈干切歌、最上川舟唄

IVステージ「林光のソングによる構成”流れる水と岩の歌”」(指揮:安田良宏)

見えない月、つぎと上衣の歌、ハ匹目の象の歌、決してこない聖者の日、神々と善人たちの無防備状態の歌、夢、告別、石ころの歌、花の歌、流れる水と岩の歌、決議、すべてか無か

第 28 回定演(1982.1.15 名古屋市民会館大ホール)

I ステージ「ブルガリア民謡を素材とした現代作品より」(指揮:安田良宏)

ガーナーのお母さん、ダフィノのワイン、ハイドウシカのタ

ミミズ！ どうする？

B1 福井 稔

この頃毎日酷暑続きなので、私は日の出前に散歩に出かけている。散歩の途中にコンクリートの階段があり、その両側は草むらの土手になっている。毎日杖をつきヨタヨタと歩き、その階段を上って団地内を一回りして帰る。

帰る頃になると陽が登り、気温が上がってくる。すると階段のステップには、横の土手の土は暑すぎるのでミミズが出てきて、体を伸ばしながらはっている。「おや、おや。コンクリートはどこにも冷たい場所は無いぞ！」と思いながら帰ってくる。次の朝、案の定、何匹かのミミズが干からびて死んでいる。「ああ！ 苦しかつただろうな！」そんな毎日続くと、階段はミミズの干物だらけだ。そこで私はビニールの袋を持っていて、まだ生きているミミズを拾い帰り、我庭のナスの苗の元に入れてやつた。上手に土の中に潜って生き延びられるかなと思いながら。幼いとき母親から、ミミズは生ゴミを食べて畠の土を改良すると聞いていた。しかしこの所もうミミズは現れなくなった。ミミズは全滅したのだろうか。どこかで生き延びているのだろうか。

近頃地球は温暖化によって気温が上昇、強い台風、集中豪雨が頻繁に起こり、別な所では雨が全く降らず、山林火災が襲い、世界的な食料・飼料不足になり、物価上昇、経済の縮小、貧富の拡大による飢餓が起こっている。太平洋の中の国々の水没の危機さえ現実的に叫ばれている。こんな気候が毎年続くんじやなかろうか。来年も暑い名古屋が来るのだろうか。本当は全世界的問題なのに、自国だけは生き延びようとして、〇〇〇・First と言って、「蜘蛛の糸」のような競争を始め、ついに戦争まで始めてしまう。我人類は、この流れを阻止できるか。ミミズより賢いと思っていたけれど、そう変わらず、最後には核戦争で全滅か。

「あんたはもう居ないから無駄な心配よ」女房は冷笑するけれど、孫、曾孫の時代にはどんな地球になっているだろうかと思いながら、今日もまたヨチヨチ歩いて階段を上がって散歩している。

2023/09/2 記

さて、2024 の夏は、どうなったか！ ミミズは無事だったか。2024/8/7 現在、名古屋の予想最高温度は 38 度。昨年と同じように、階段をミミズがはっていた。しかし数はずっと少なく、何段かの階段に 1 匹、干からびたミミズが数匹。

同じ原爆平和記念日に、日本の若者が「気候変動は、人権侵害だ」として、CO2 の削減を求めて、名地裁に提訴した。この日がこの記念日になれば、良いね。

2024/8/7 記

45年ぶりのfolklore演奏復活の舞台裏

B1 森島正明

2019年スプリングコンサートが終わり、団内にて、今後のレバとして名大男声過去の定演レバから发掘活動が始まり、25回、27回に演奏したfolkloreが候補のひとつに挙げられた。一方、私事だが、2019年7月に夏風邪が長引いたため、近所の内科クリニックにかかった（近所で評判の病院と聞いており、半分はお手並み拝見という観点もあった）結果、医師から

「心臓雜音がする、僕は弁膜症だと思うから、大病院で検査しなさい」と勧められ、聖隸浜松病院の循環器内科で検査を受けた。検査日の午後は、埼玉県から浜松に車で遊びに来てくれた同期と喫茶店で待ち合わせていたが、検査が長引き、待たせてしまった。彼はコーヒーを何杯も飲んだそうだ。「時には昔の話を」に、『コーヒー一杯で一日』という歌詞があるが、なかなかそういうわけにもいかなかつたようだ。久しぶりに会ったので、近況や合唱活動の話など積もり積もつた話をした。検査結果は1週間後に出で、弁膜症（詳しくは、大動脈弁閉鎖不全症）と診断され、担当医から「病気は進行しているので直すには手術しかない」と言われてショックだったが、今後は通院して検査結果や経過を見ながら手術のタイミングを図っていく事になった。息苦しい、むくみが出る等の症状は全くなかったが、病気と診断しながら即手術をしないというのも不思議だった。主治医からは、「今は普通の生活をしてよい、手術が必要なタイミングが来たら伝えるから」と言われた。

それから定期的に通院し、検査しながら状態を診てもらっていたが、2020年11月になって（主治医も交代）、「1年経過して心臓機能が20%程弱ってきたので、手術検討に入る」と言われ、手術を見据えた検査を行なながら、手術方針の検討に入つた。診療科も循環器内科から心臓血管外科へとバトンタッチされた。

2021年に入って、指揮者の高橋さんからレバの楽譜が無いかと問い合わせがあり、当時25、27回両方の演奏会で歌った唯一の団員であったため、自分の仕事と思い、実家の倉庫から楽譜を探し出し（当時は青焼きでしたね）少々見にくく部分もあったが、なんとかコピーできた。2021年5月8日の手術が決まり4月から名古屋男声の練習を休んでいたため、楽譜を指揮者に郵送することにし、楽譜と一筆書いた手紙を添えて封筒に詰めたのが手術前日5月7日だった。手術後ICUに入った（3日間も）が、手術が無事終わつたことを主治医から知られ、ほつとすると共にfolkloreも歌えるなあという思いも過ぎつた。医師から「あと2年放っておいたら心不全で危なかつた」と知らされた。入院中に大好きな俳優の1人である田村正和さんが心不全で亡くなつたことを知りショックを受けた。これはおまけになるが、退院前日に女優の新垣結衣さんが星野源と婚約したことを知り、別の意味でショックを受けた。

それにしても、もし2019年に近所の内科にからなかつたら、病気の発見も遅れ、命が危なかつたことを考えると、言葉は悪いが、冷やかし気分でかかった医者が命の恩人になつた。

ここで新たな問題が発生した。2021年10月高橋さんから、「トウクマンの月」と「プレシオーサ」の「伴奏譜」がないか、という問合せがあり、これは自分でどうにもならないので、1年下のメンバ2名に連絡し、彼らは同期も含めて探してくれたが、誰も保管していなかった。1年下の代は、同期で交流を継続しており、コロナ渦でもWeb飲み会などをやっているようだ。

「フルクローレの話題で盛り上がったと聞いている。上記2曲を含む楽譜「フルクローレの囁き」(OBの青木豹九郎さん編曲)が販売されていたが、絶版になったとの情報もあったため、もはやこれまでかと思った。しかし、2人はあきらめることなく出版社をあたってくれて、少し時間はかかったものの、楽譜を入手した。恐らく無理やり再販して頂いたのだろう。11月に彼らが入手した楽譜を借りて、練習に復帰した際に、指揮者にコピーを渡すことができた。これで何とかレパ実現にこぎつけたかなと思いほつとした。偉大なる後輩の執念には感謝するしかない。記念にと思い、私も当該出版社に楽譜を注文し、1か月くらいかかったが楽譜をゲットした。

翌年2022年の3月に出された選曲方針に、フルクローレが選定されたときは、とても嬉しかった。

結局、2ステは25回から、「耕す者への祈り」、「不屈の民」、「祖国よ再び」の3曲を、27回から「トウクマンの月」、「プレシオーサ」の2曲と、「フルクローレの囁き」から「尋ねてよ星に」をピックアップし、計6曲で構成された。前半は27回のレパと「尋ねてよ星に」をピアノ協演。

ピアノの掛川さんとは、10年以上にわたって協演中であるが、彼は大胆さ・繊細さを併せ持つすばらしいピアニストだ。

後半3曲はフルクローレ演奏バンドCHASKAさんとの協演。彼らはペルーのフルクローレを中心に演奏しており、今回初めてチリのフルクローレを演奏したようで、最初は名古屋男声のオファーを受けるか否か迷ったらしいが(SC後の祝賀会での話)、感動的な演奏をしていただき、彼らにとってもカルチャーショックがあったと思う。なんと「不屈の民」の後に「祖国よ再び」を持ってきた。不屈の民をべたと重く歌うのではなく、スイング調にして軽快にし、締めくくりとして、世界の人々が切望する平和な祖国を取り戻す決意を歌った楽曲を持ってきたことが、とても良かったと思っている。

この後半3曲を歌うために神奈川から同期が急遽入団してくれたこともうれしかった。2ステ限定で十分と思ったが、全ステージ登壇したことは、同期ながらさすがと言えない。本番では、定演でフルクローレを歌った代である1975~1978年入団組が、13名となっていたことも驚きだ。

プロジェクトXのミニ版のような話になってきた。(と思っているのは私だけかもしれない)

5月2日に職場で送別会をやったのだが、2次会はカラオケにいくことになった。個人的に十数年ぶりのカラオケであった。その中の1曲として、プロジェクトXのエンディングで中島みゆきさんが歌っている「ヘッドライト・テールライト」を歌ってきた。この曲はいろいろな合唱団でレパとして取り上げられているが、歌ってみて、とても良い歌だと思った。

演奏会後、間髪入れずに、次回の演奏会を目指して練習が再開された。

2ステは、32回定演で演奏されたハンス・アイスラーの合唱作品から選曲していくことが決定され、「子供の国家」、「連帶の歌」の練習に入っている。私は24～27回の定演に登壇した代なので、約5年若い代が演奏したレパを歌うことになった。これを機会に、当時演奏会に登壇した世代が入団してくれることを期待したい。

3ステは北原白秋作詞の作品を取り上げた。これも良い企画で、楽しみだ。昨年7月15日に母が89歳で他界して(7月16日が90歳の誕生日)、空き家になった実家の片付けをやっている中で、母が出身大学の事務局の依頼で執筆した文章が記念誌に載っているのを見つけた。

(抜粋)：「短大時代の思い出は？」と聞かれると、「60余年の昔で忘れてしまったわ」と言ってから、やはり何人かの恩師や友人の顔が浮かびます。恩師は、身体も大きく、心も広い方でした。各方面の有名人を迎えて学生達に話をしてももらいました。とても良い企画です。本の中の人だと思っていた北原白秋氏が壇上に立たれた時は、びっくりしました。

私は北原白秋氏(1885～1942)に会ったことはありませんが、母が学生時代に会った北原白秋氏の作品を歌うことになろうとは、何か親子のつながりを感じる。

この合唱団が存続し、これから若い世代(40代、50代、60代前半)も入団し、現役に再び男声合唱団が復活することを強く信じている。

非常時連絡先

B1 稲守宏夫

変なタイトルですが、5月末のビックリ仰天・肝を冷やした体験を紹介します。

私はこの春83歳になりましたが、今なお定期的(当時は毎週2日、今は2週に2日)に千葉県にある、従業員100名ほどのYTK社に出かけ、技術顧問の肩書で圧延技術や設備技術の助言をし、時には設計や工事のお手伝いもしています。その会社には、現役時代部下だった8歳若い同僚も、テーマはお互いに別々ですが、一緒に出掛けています。

出かける日の朝は6時半過ぎ名古屋発の新幹線に乗り、翌日の21時頃名古屋着で帰るのが通例でした。1泊2日の出張としては、一般にお勤めの方と同様で、年の割には元気で行動できていると思っています。

肝を冷やした経験は、5月28日(火)の夕方のことでした。18時頃退社して近くの食堂で、社長(3代目で50歳)と同僚と一緒に食事を済ませ、19時半頃店を出て歩いて駅(地下鉄東西線の延伸先)に向かいました。私の常宿のホテルはこの駅から2駅先ですので、折からやってきた空車のタクシーに乗ろうと向かいかけた時、突然ドンと

鈍い音が後ろでしたのです。

振り向いてみると同僚が、うつぶせに倒れているではありませんか。社長と私は駆け寄って仰向けに起こし、大声で「Mさん！Mさん！」と叫びました。頬を叩いても目を開けず、反応もありません。右目の上には、見る見るうちに卵大のこぶが、右目下にもウズラの卵大のこぶが膨らんできました。周りには10人程が取り巻いてきました。

その時、二人の若い女性が近寄ってきて「私達、看護師です」と言い、一人は「119番しますね」とスマホを取り出し、もう一人は脈を確認し、顔を鼻に近づけて呼吸を確認し「AEDを」と同僚に伝えました。

間もなく駅前の交番からと、通りかかったパトカーからも警察官が来て、「この人の名前は？」「どうして倒れたの？」「関係は？」とか、「連絡先は？」などと聞きます。私は同僚がどうなるのかと不安の塊ですが、警察官は、事件なのか、事故なのかを判断しようとしているらしく、当方の返事を克明にメモします。私も手帳を開いて確認するのですが、携帯電話は書かれているが住所の記載はなく、年齢も「6~7歳下」としか答えられません。妻に電話して、家にある住所録から住所を聞き出したりしますが、同僚が亡くなってしまうのではないかと心配で、言葉もなかなか出ない有様でした。

間もなく見知らぬ男の方が、赤い箱のAED(後ほど駅に備え付けのものと判明)を持参し、同僚の胸を開いて手際よく胸に電極を貼り付け、「離れてください、危険です！」と叫び、「ドン！」と響くと同僚の体が浮いたように見えました。AEDの扱いはマンションの防災訓練で習ったことはありましたが、いざとなると手も足も出ませんでした。

AEDを扱った方は引き続き心臓マッサージを始めましたが、しばらくして救急車が到着し救急隊員と交代しました。その方がその後どうされたかは、大ショックだったせいか全く覚えていません。

二人の看護師さんは「ではこれで失礼します」と言い、駅に向かいました。私は「ありがとうございました」と言うのが精いっぱいで、職場や名前を伺うことなど全くできませんでした。今思うと、「頼りない先輩だったなあ」と反省しきりです。この間、10分ほどのことでした。

救急車に同乗は一人しかできませんでしたので、社長が同行し私はホテルで待機しました。緊急入院先はなかなか決まりず、1時間半ほどして40kmほど離れた大きな病院に到着し、所定の検査を済ませてICU(集中治療室)に入ることが出来ました。この間に四日市の奥様と連絡がとれ、東京三鷹在住の次男の方が真夜中に到着、奥様と長女・次女の方は、明け方に車で到着したことでした。

その時点では自発呼吸はしていたが、意識は戻っていなかったそうです。

翌朝出社して聞いたところ、突発性心筋梗塞が原因で、ICUでカテーテル手術を行い、大きな血栓は除去できたそうですが、意識が戻ったのは夕方になってからでした。

同僚は意識が戻るとお岩さんのような顔で、何事もなかつたように「ここはどこ？」

「私はどうしてここにいるの？」と聞いたそうです。医師は ICU に奥様を入れて面会させ、事情を説明して安心させて、安静に休むように伝えると眠りについたそうです。

病院の医師によると、「救急車到着前に AED と心臓マッサージをしたことが救命につながった」と話したそうです。

その後の経過ですが、同僚は 1 週間で ICU から一般病棟に移り、2 週間後には四日市に移動して自宅療養となり、7 月末の現在はテレワークで仕事に復帰し、8 月からは従前の業務形態に戻る予定です。お岩さん状態だった顔もすっかり元に戻り、脳への後遺症もない模様です。

私は同僚の、命にかかわりそうな事故にもほとんど貢献できず、「ただ居合わせたこと」が幸運につながったと感じていますが、もし自分一人で外出中に意識を失ったとしたらと考えると、身元の特定をはじめ、家族への連絡など難しいと心配です。

そこで、**非常時連絡先**なるものを作り、敬老パスや保険証を入れている名刺入れに加えました。内容は、氏名、生年月日、住所、電話・携帯番号、妻・子供たちと会社の連絡先、終末期医療への希望などです。

こんなものが役立つことは望みませんが、我々の年代になるといつ何時こうした事態が発生するとも限りません。自分と家族にとって必要なことと考えて、ご紹介した次第です。

最後に、色々と尋ねて来た警察官について、彼の名誉のために補足します。同僚が退院して自宅に移動する際に、奥様が警察署を訪問してお礼を伝え、併せて心拍や呼吸を確認し 119 番連絡をしてくれた二人の看護師さんと、AED で救命し心臓マッサージをしてくれた男性について尋ねたところ、警察署では全てを把握しているとのことでした。奥様はお礼に伺いたいと意向を伝えましたが、警察は本人に確認した上で、「医療従事者として当然のことなのでと固辞された」と伝えられたそうです。

混乱の最中に、冷静に情報を漏れなく集めて記録する現場第一線の警察官のことを、私は同僚のことが心配のあまり「小うるさいなあ」と思っていました。ごめんなさい。

(了)

趣味たちとの出会いと今 (その1 歴史)

T1 豊田 滋夫

1. はじめに

年明け早々75歳、いわゆる後期高齢者となりました。人生百年時代ならばいよいよ第四(最終)四半期に突入したのだとある種の感慨を覚える昨今です。

「人生とは出会いである」とも、また「三つ子の魂百まで」とも言われます。私の来し方を振り返ると、成人までの人格形成期に、父の転勤に伴い四日市→名古屋→小倉(現北九州市)→四日市→西宮→仙台→名古屋と引越し(転校)を繰り返し、各地で様々な風土や環境に接し、そして様々な人達に出会えたことが自分の基礎を形作っていることに改めて気づきます。

この時期に出会えた幾つかの趣味のお蔭で、私は会社リタイア後も「何をして過ごそうか」と思ったことは殆ど無く、むしろやりたい事が多くて時間が足りないくらいで、充実したセカンドライフを過ごしています。今回は私の幾つかの趣味の中でも一番古く、特に思い入れの深い「歴史」(主に日本史)について我がヒストリーを述べてみたいと思います。

2. 小学校時代

始めて歴史に目覚めたのは小倉の小学校4年生の時でした。1年生の途中で名古屋の東山小学校から転校したのですがなかなか友達もできず、よそ者に対するいじめなどもあり内向的な児童だった私は、学校から帰つたらラジオ番組(赤胴鈴之助、風雲黒潮丸など)を聴いたり、興味を持った本を読みふけるという生活が続いていました。

そんなある日、昼休みに図書室で見つけた本(確か「源氏と平家」)が面白くて夢中で読んでいると、「なんしよんのね?」(標準語訳:何をしているんだい?)とN先生に声を掛けられたのがすべての始まりでした。先生は隣のクラス担任で熱血教師、そして歴史が大好きな方で、「ほら、この前遠足で行った関門国道トンネルの向こう側(本州側)が壇ノ浦。平家が滅亡した場所で…」など関連知識を教えて下さつただけでなく、「当校のこの場所は百年くらい前のチョウバク戦争の時の戦場で…キヘイタイが活躍して…新しい日本の歴史がここから始まつたんだ。」などと滔々と歴史談話をされました。益々歴史に興味を持った私は、「いつでも職員室に聞きに来なさい」と言われた先生の言葉を真に受けて、図書室で歴史関係の本を次々に読んでは先生に質問に行く…これを繰り返しながら次第に歴史マニアの少年になっていきました。

夏休みの自由研究で「福岡と博多の違い」を採り上げたのもこの頃でした。同級生の母上が「自分は福岡ではなく博多の出身です」と自慢げに話されるのを不思議に思い、この2つの街の地理と歴史を調べたいと思ったのが動機で、苦労して調べ上げた内容は今でも殆ど覚えていますが、案外この「福岡と博多の明確な違い」は一般的には知られていないようです。

なお、N先生の言われた“チョウバク戦争”的意味は当時全く分からず、随分後になってから、1866年

(慶応2年)の徳川幕府による第二次長州征伐(幕長戦争。地元では長幕戦争と称した?)の「小倉口の戦い」だと判明。高杉晋作率いる奇兵隊が、この小学校の裏手の丘で小笠原氏(小倉城主)や細川氏(熊本城主、前小倉城主)などの幕府正規軍を撃破し、小倉城を一気に攻め落として幕府側の大敗が決定的となつたので、新しい日本の歴史がここから始まつたと言つても過言ではないでしょう。

小学5年の9月(伊勢湾台風の直前)に生まれ故郷四日市へ戻り転入したのは、三重県で一番古い歴史ある学校でした。担任のY先生は若くて(29歳独身だったと記憶)一本筋の通つた厳しい情熱家でしたが、地元に深い愛着を持って郷土史も研究しておられたようで、次のような事を教えて下さいました。

- ① 我が小学校のこの土地は徳川幕府の陣屋(代官屋敷)が置かれていた場所で、東海道四日市宿の中心地であった。(四日市は一時期を除き幕府直轄の天領であった。)
- ② 廃藩置県直後の明治5年から6年にかけ短期間ではあつたが(のちに調べて1年9ヶ月間と判明)、この場所に三重県庁が置かれていた。そして県庁所在地・四日市の属する三重郡の名を取つて県名を「三重県」と決定。その後県庁が津に移転し、南の度会県と合併した後も県名は三重県のまま今まで変わっていない。四日市の子供ならこれくらいの事は覚えておきなさい。

この二人の先生との偶然の出会いが、自他ともに認める歴史マニアである今の私の根幹となっています。なおY先生は実に多才な方で音楽にも造詣が深く、私が初めて合唱を経験したのはこの先生の指揮の下でした。何という不思議なご縁でしょうか。

1. 中学～大学時代

中学入学後の2年間(四日市4ヶ月、西宮1年8ヶ月)は卓球部の活動に忙しく、歴史関係の特記事項はないものの、2年生の歴史の授業は一番興味があり、よく挙手をして発言や質問をしたのを覚えています。

3年生の4月に仙台へ転校してからは、初めて住む北国の街の地理や歴史に興味津々、「社会部」に入って城下町仙台の成立を調べたりしました。伊達政宗の町割で特に印象に残つているのが、武士の住む町は「丁」、町人の住む町は「町」という明確な使い分けで、当時は地図を見ればこの辺が武家屋敷だと判別できたのです。因みに我が家は中島丁、代表的繁華街は東一番丁でした。その後政令指定都市になって町名が変更され、この区分が曖昧になつてしまつたのは残念なことでした。

高校入学後2年間は「仙台一高男声合唱団」の活動が中心で、今に続く男声合唱ライフの原点になつていますが、これについては稿を改めて述べたいと思います。この間も歴史好きは変わることなく、得意科目は、日本史、世界史、古文、漢文などでした。

3年生の初めに名古屋へ戻り、急遽編入試験を受けて明和高校に転校。進路決定時には文学部史学科へ進もうかとも考えたのですが、結局現実的な法学部を選択しました。

それでも歴史への思いは断ち難く、名大法学部のゼミでは日本法制史を専攻。近代法における欧米法の継承などを学ぶ中で、織田信長の京都の商人経由での皇居維持費献上の手法が「信託」の概念に近いのではないか?とマニアックな興味を持って信託法を研究したことが、卒業後に信託銀行に勤

務する動機となりました。ゼミ旅行では飛鳥、伊豆（韭山、下田）、佐渡、諏訪等を訪れ、卒業旅行は桂離宮、修学院離宮、京都御所の見学でした。

大学生活は名大男声の活動で忙しい日々でしたが、時間があれば司馬遼太郎、海音寺潮五郎、吉川英治など歴史関係の本を片つ端から読み漁ったものです。

2. 仕事現役時代

信託銀行での29年間は名古屋→静岡→東京→大阪→東京→大阪→東京と異動、通算20年も大阪府内勤務だったのは幸運でした。何と言っても関西は史跡の宝庫ですから。時間を見つけては史跡巡りを楽しんだものです。特に京都へは何十回も足を運びましたが、それでも未訪の場所が幾つも残っており、千年の都の歴史の深さを感じます。

「歴史街俱楽部」に加入して歴史セミナーや、例えば「新選組」「安土城」などテーマ別の史跡歩きに参加したりした他、大阪時代の後半に南郊の富田林に居を構えてからは、アクセスの良い奈良や飛鳥、最近世界遺産に登録された「百舌鳥古市古墳群」等も度々訪れました。

大阪南部は他にも聖徳太子や物部氏関連など古代の史跡も多いことから、私も次第に古代史に傾倒し、黒岩重吾の古代小説や森浩一先生の考古学の世界に心酔していきました。

この間2回通算4年弱の東京単身赴任を経験しましたが、大阪の自宅へ帰らない週末には神田の古本屋で買った古地図を片手に江戸探訪をしたり、川越、足利、佐原などの歴史的街並みを訪ねて英雄や偉人達に思いを馳せたりしたのも良い思い出です。東京には大名屋敷ゆかりの地名が多く残っていることを知ったのも収穫でした。仙台坂、南部坂はともかく、紀尾井町に六本木…江戸人の粋でセンスの良いネーミングには感心させられます。

（紀尾井→紀州、尾張、井伊。六本木→上杉、片桐、高木、青木、一柳、朽木。他説あり）

20世紀最後の平成12年に同じグループの建材メーカーに転出し、26年ぶりに名古屋へ戻ってからは仕事も結構多忙でしたが、東海の歴史再発見をテーマに主に戦国時代、とりわけ信長関連の史跡をおさらいも兼ねて回りました。17年前の8月猛暑の日に小牧山城歴史館を訪ねた折には、山を登り切った途端に熱中症で倒れるという苦い経験もしましたが。

下関の製造子会社の役員を兼務していたのを幸いに、出張時には周辺の功山寺、東行庵や桜山神社など高杉晋作や長州志士関連の史跡に足を延ばしたことも度々でした。

3. 退職後現在まで

12年前にハッピーリタイアしてからは、磯田道史氏の「英雄たちの選択」などの歴史関係のテレビ番組を観たり、関連する本を読んだりと興味の向くままに楽しんできましたが、貴重な経験だったのは地元四日市で開講された「信長公記を読む会」に5年間ほど参加したことでした。

この講座は講師の一方的説明ではなく、受講者が順番に割り当てられた原文を解読して現代語に訳して意見などを述べたのち、講師がコメントを加え相互に意見交換する「講読会」の形で知的好奇心を刺激され、脳の活性化（ボケ防止）に大いに役立ちました。また折に触れ現地調査と称して桶狭間、観音

寺城、北畠氏館跡等を講師の解説付きで歩いたり、例会後には懇親会で同好の士との歴史談義(放談会)に花を咲かせたりしたのも至福のひと時でした。

現役時代には訪れるのが難しかった遠方(東海、近畿以外)の史跡をゆっくり見て回れるのもリタイア老人の特権とばかり、今までに三内丸山、吉野ヶ里、岩戸山古墳(福岡県八女市)等の古代遺跡や、五稜郭、弘前、酒田、角館、会津若松と大内宿、柳川と日田、鹿児島等々を訪ねたり、四国や中国地方の名城巡りにも出掛けました。昨秋は岡崎在住の“歴史友達”的誘いで「家康公の故郷を歩く会」に参加、今春には関ヶ原でボランティアガイドをやっている名大男声同期 Y 君の案内で古戦場を巡り、さらに不破関跡や壬申の乱の旧跡を訪ねるなど今も歴史探訪はやめられません。まだまだ訪れたい所も多々あり、足腰が衰えないようメンテしておかねばと改めて感じています。

数年前からは、自分が相対的に弱い分野の南北朝から室町時代のことをもっと知りたいと幾つかの本を読んでみましたが、「応仁の乱」(呉座雄一著)は秀逸でした。しかし残念ながら加齢による記憶力の低下は否めず、人名や人物相互の関係など新しい知識がなかなか頭に入らず、覚えてもすぐに忘れてしまうのが悩みの種。そこで最近は自己流の「歴史備忘ノート」を作成して、読書や歴史番組(必ず録画しておく)の要点を書き留めておくようにしています。藤原道長関連も3年前の磯田道史氏の番組に基づいて略系図を作つておいたので、今年の大河ドラマ「光る君へ」も、そのノートを見て人物の相互関係を確認しながら楽しんで鑑賞しています。

昨年からは別の歴史講座が地元で開講され私も迷わず参加、信長公記のメンバーの何人かとも再会してまた一緒に月 1 回勉強しています。主テーマは戦国史ですが、この講座の最大の魅力は、最近の研究成果や発見された新史料(古文書)を紹介して、従来の通説(俗説)を批判的に検証していくという視点です。例えば今学んでいる「斎藤道三」編では、岐阜県史に紹介された六角氏の文書により、司馬遼太郎の「国盗り物語」に書かれているように油売りから一代で国主に成り上がったのではなく、父と道三の親子二代で美濃の国盗りに成功した事実が判明したこと等々。これだから歴史は面白い!私の歴史探訪はまだまだ続きそうです。

6. あとがき

定年を意識し始めた頃、我々団塊の世代の名付け親・堺屋太一氏の著書の中に「第二の人生は『有利(やるべき事)』よりも『好き(やりたい事)』を選ぶべきである」「その『好き』を持っている者は幸せである」という言葉を見つけ、正に我が意を得たりと思いました。私には歴史がある!高尚な趣味と言われたりもしますが、とにかく好きで仕方がない、ただそれだけなのです。

コロナの時期に「自分史年表」(Agora 第 29 号に概要掲載)を纏めた私は、次は日経「私の履歴書」とまではいかなくとも、少年期から今に至る趣味の二本柱である歴史と合唱についてマイヒストリーをまとめてみたいと考えていました。Agora が良い機会だと思って 5 月末から書き始めたものの、6 月から妻の病気で主夫業が多忙となり筆が止まって脱稿が遅れてしまいました。

拙文かつ長文を最後までお読みいただいた皆様、ありがとうございました。

次回は機会を見て(その2 合唱)を書こうかと考えています。15 歳の時に仙台一高で初めて男声合唱の素晴らしさを知ってから丁度 60 年、記憶が衰えないうちになるべく早く。

AIによる「連帯の歌」の翻訳

B1 川口元一

連帯の歌 Solidaritätslied の Brecht の詞を、AIに翻訳させて遊びました。Copilot と ChatGPT3.5 を使いました。プレヒトの詞と二つのAIの回答を順に示します。

◆ Brecht の詞

Vorwärts! und nicht vergessen,
Worin unsre Stärke besteht.
Beim Hungern und beim Essen,
Vorwärts, nicht vergessen die Solidarität!
Auf, ihr Völker dieser Erde!
Einigt euch in diesem Sinn:
Daß sie jetzt die eure werde
Und die große Nährerin.
Vorwärts! und nicht vergessen,
Worin unsre Stärke besteht.
Beim Hungern und beim Essen,
Vorwärts, nicht vergessen die Solidarität!
Schwarzer, Weißer, Brauner, Gelber!
Endet ihre Schlächterein!
Reden erst die Völker selber,
Werden sie schnell einig sein.
Vorwärts! und nicht vergessen,
Worin unsre Stärke besteht.
Beim Hungern und beim Essen,
Vorwärts, nicht vergessen die Solidarität!
Wollen wir es schnell erreichen,
Brauchen wir noch dich und dich.
Wer im Stich läßt seinesgleichen,
Läßt ja nur sich selbst im Stich.
Vorwärts! und nicht vergessen,
Worin unsre Stärke besteht.
Beim Hungern und beim Essen,
Vorwärts, nicht vergessen die Solidarität!

Unsre Herrn, wer sie auch seien,
Sehen unsre Zwietracht gern,
Denn solang sie uns entzweien,
Bleiben sie doch unsre Herrn.
Vorwärts! und nicht vergessen,
Worin unsre Stärke besteht.
Beim Hungern und beim Essen,
Vorwärts, nicht vergessen die Solidarität!
Proletarier aller Länder,
Einigt euch, und ihr seid frei,
Eure großen Regimenter
Brechen jede Tyrannei!
Vorwärts und nie vergessen
Und die Frage konkret gestellt
Beim Hungern und beim Essen,
Wessen Morgen ist der Morgen,
Wessen Welt ist die Welt?

◆ Copilot の回答

著作権の問題あり、要約のみ記述すると言っています。以下の通り。

「労働者の連帯と団結の重要性を強調しています。詩の中で、ブレヒトは人々に対し、飢えや食事の時にも連帯を忘れず、共に立ち上がるなどを呼びかけています。また、異なる人種や民族が団結することで、抑圧や不正に立ち向かう力が生まれると述べています。」

上述のように、Copilot は著作権を考慮して全文翻訳を示していませんが、これも見識です。

◆ ChatGTP の回答

こちらは全文翻訳です。瞬時に翻訳文が示されました。ほぼ正確な翻訳文と言って良いでしょう。現時点でも、AIの能力に驚かされます。先は一体どんなことになるのやら。翻訳文を以下に示します。

前進せよ！そして忘れるな、
我々の強さが何にあるかを。
飢えているときも、食べているときも、
前進せよ、連帯を忘れるな！
この地球のすべての人々よ、

この意志で団結せよ：

それが今、君たちのものであり、

偉大な養い手となるように。

前進せよ！そして忘れるな、

我々の強さが何にあるかを。

飢えているときも、食べているときも、

前進せよ、連帯を忘れるな！

黒人も、白人も、茶色人も、黄色人も！

彼らの虐殺を終わらせよう！

人々が自ら話すとき、

彼らはすぐに一致するだろう。

前進せよ！そして忘れるな、

我々の強さが何にあるかを。

飢えているときも、食べているときも、

前進せよ、連帯を忘れるな！

早く達成したいなら、

我々にはまだ君や君が必要だ。

仲間を見捨てる者は、

ただ自分自身を見捨てるだけだ。

前進せよ！そして忘れるな、

我々の強さが何にあるかを。

飢えているときも、食べているときも、

前進せよ、連帯を忘れるな！

我々の主たちは誰であろう、

我々の不和を喜んで見る、

なぜなら彼らが我々を分裂させる限り、

彼らはまだ我々の主であり続けるからだ。

前進せよ！そして忘れるな、

我々の強さが何にあるかを。

飢えているときも、食べているときも、

前進せよ、連帯を忘れるな！

万国の労働者たちよ、

団結せよ、そして自由を得よ、

君たちの大きな連隊が

すべての圧政を打ち碎く！

前進せよ、そして決して忘れるな、

そして具体的に問う、
飢えているときも、食べているときも、
誰の朝か、その朝は、
誰の世界か、その世界は？

仏教 よもやま話

B2 松田昌展

この歳になると、なんとなく葬儀だとか墓だとか、いわゆる仏教を中心とした宗教行為が気になるのではないでしょうか。

公務員を定年退職した後、いわゆるお勤めはしたくないし、といつても畠仕事だけではつまらないしと、龍谷大学の仏教学科に聴講生として何年も通っていた私が、「へえ」と思ったことを、思い付くままに書きつらねたいと思いますので、お付き合いください。

第1回《お布施》

坊さんにお金を差上げるのを、お布施といいますね。変わった言葉だと思われませんか？

これは、釈迦が許した内容に由来するようです。

つまり、釈迦は弟子集団に対し、私有財産を禁止するのですが、例外として許したのが、「ボロ切れ」

行き倒れになって埋葬もされていないような死者が、身にまとっていた衣は、埋葬した者が自分の私有財産としてよい。

その衣というよりボロ布をつなぎ合わせて、なんとか一枚の衣として身にまとっていたようです。

信者が、僧侶に何か施しをしたいとき、受け取ってもらえるのは「布」だけであるというところから《お布施》という言葉になったようです。

ちなみに、現在、僧侶が葬儀の際に身にまとう、おそらく煌びやかな袈裟も、決して一枚布では作られず、パッチワークのように布が継いでいるので、葬儀の際にはご覧になってください。

次回は「お供養」について書かせてもらいます。

白い道、名古屋の道

B2 藤田 仁

1. はじめに

「白い街」という歌がある。昭和42年に石原裕次郎が歌った歌ということだが、あまりヒットはしなかったようである。私も就職して名古屋勤務となったときにカラオケスナックで初めて知った。

1番の歌詞は以下である。

この道の はるか彼方の
雲流れる下に 幸福がある
ああ 久屋通りの花時計
花に遺した きみの微笑
白い街 白い街 名古屋の街



名古屋のコンクリート舗装

2番では白壁町、3番には東山が出てきていざれも「白い街、白い街、名古屋の街」と締めくくられる。白い街というタイトルに込められた意味は諸説あるようであるが、白いコンクリートの街というイメージが背景にあるのは間違いないところではないだろうか。

道路業界では名古屋のコンクリート舗装は有名であり、100m道路とともに名古屋の道路の広さを知らしめる存在であり、先見の明を持った街づくりのお手本と言える。

戦後、空襲で甚大な被害を受け、焼け野原となった名古屋の街を復興するにあたり、当時の名古屋市長の要請を受けた内務省名古屋土木時事務所の田渕壽郎(たぶちじゅろう：東京帝大土木工学科卒、工学博士)が100m道路(久屋大通と若宮大通)を計画し、その他の幹線道路も幅員50mを確保するという計画を立案した。当時の日本の復興計画では火災の延焼防止などのため東京、大阪などの大都市に幅員100m級の道路を建設しようという動きはあったが、GHQの反対もあり実現したのは先行していた名古屋の2路線と広島の平和大通りの3か所のみであった。同時に本道路整備に伴い予定地にあった多くの墓地をすべて平和公園に移転させるという英断も市長をはじめとする道路担当者の努力の賜物と評価されている。

2. 日本の道路整備

1960年頃の日本の舗装は幹線道路はコンクリート舗装とするのが通常であった。それ以外の舗装はアスファルト舗装であったが、現在のようなアスファルトプラントもないため、多くのアスファルト舗装は砂利に液状のアスファルト乳剤を混ぜた舗装であったり、砂利の上に釜で加熱したアスファルトや液状のアスファルト乳剤を撒いた上に小石を散布して人力ローラで締め固めるという工法であった。



1960年頃のコンクリート舗装の施工
(幹線道路)



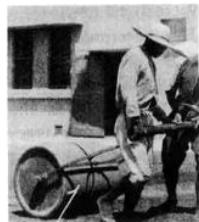
アスファルト乳剤による舗装
(浸透式工法)



如露型撒布器で乳剤撒布



フレイで目潰し碎石撒布



手引きローラ



砂利道にアスファルト乳剤を混ぜる機械

私も幼い時に舗装が足にベタつくように感じた記憶があるが、諸先輩方はこのような舗装をご存知なのではないだろうか。

コンクリート舗装に用いるセメントは現在、世界のほぼどこの国でも自国生産できており、当時の日本でも生産しており輸入が必要なアスファルトに比べ入手しやすく、この理由から幹線道路でコンクリート舗装が使われたと思われる。ちなみにアスファルトは原油を精製し、航空機燃料、ガソリン、軽油、重油を取ったあとの残渣（残りかす）であり、東京オリンピック前後のモータリゼーションの高まりに合わせ自動車燃料の必要性から原油の輸入量が増えたため容易に入手できるようになった（ただし現在では精製技術が進み、アスファルトを残すことなくC重油までを生産できるようで、わざとアスファルトを残してもらっているようである）。

道路整備に関する大きなエポックメイキングな出来事として1956年（昭和31年）に米国からRalph J Watkinsという世界銀行の経済学者を団長とする調査団（ワトキンス調査団）が来日し日本の道路の現状と当時計画されていた名神高速道路やその後の東名高速道路、中央自動車道についてレポートを当時の建設省に提出した。レポートの冒頭には下記の文言が記された。

「日本の道路は信じ難いほど悪い。工業国にしてこれほど道路網を無視してきた国は日本以外にない」

このレポートを受け日本国政府は高速道路ネットワークの骨格を作り、当時GDPの0.7%であった道路整備予算を10年かけて勧告通りの2%まで引き上げるとともに道路特定財源（燃料税を道路整備の為だけに使用する）制度を成立させることになる。

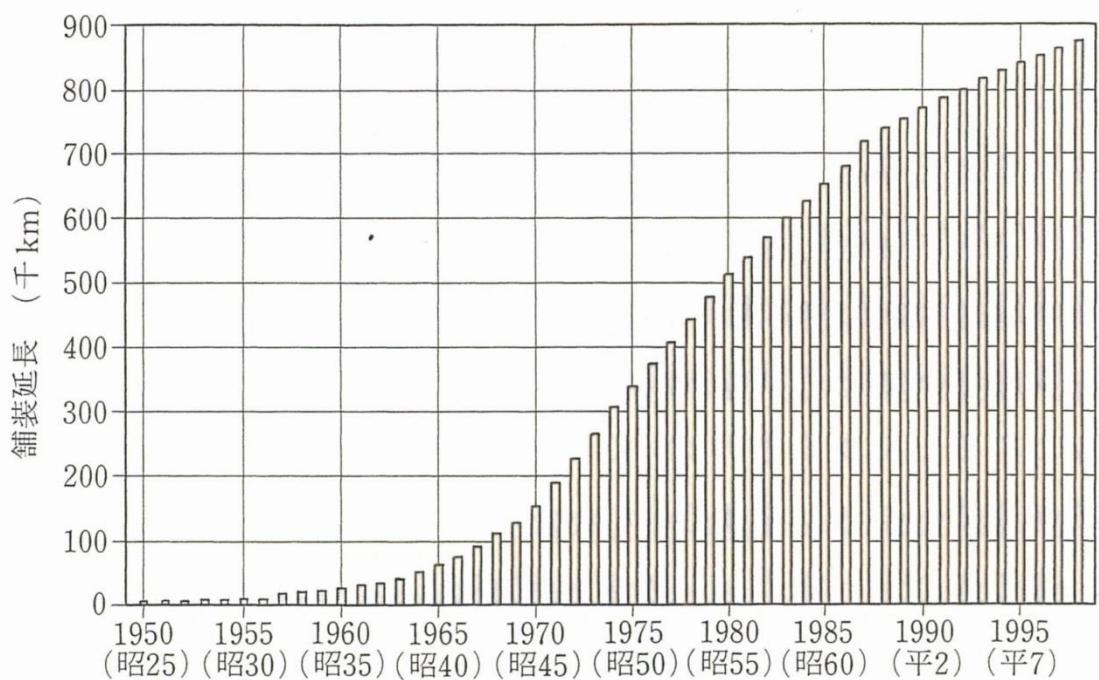
この昭和31年という年は経済白書で「もはや戦後ではない」と記された年であり、日本の高度成長に向けて道路舗装延長が急激に伸び始める変化点となっている。余談であるが、私をはじめ1975年名大男声入団メンバーが生まれたのもこの1956年である。

ワトキンス調査団が来日した当時の日本の道は、砂利道か土道であり雨が降ればぬかるみ、乾燥すれば土埃が舞う道（「砂川」で歌われたほこりの道もこのような道であったと想像される）であった。



写真1-11 改良済みの国道を走るトラック、後続車は砂塵の中

1956年頃の日本の道



1956年以降、舗装延長は急激に伸びた

3. 日本のコンクリート舗装

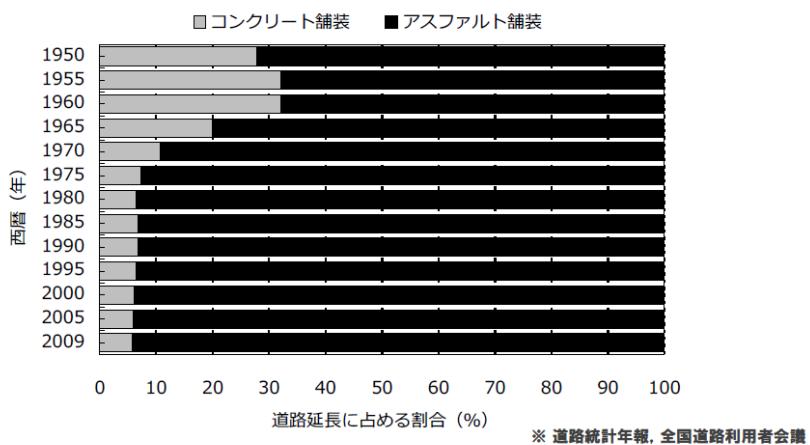
1960年当時は、前述したように幹線道路はコンクリート舗装で施工され、当時は道路全体の30%を占めていた。その後急激に舗装延長を伸ばす必要性があったことからアスファルト舗装が広く使われるようになった。すなわち①工期が短くて済む②初期コストが小さい③生活インフラ（電気、水道、ガスなど）の工事の際に復旧が容易などの利点があったためである。特に生活道路を中心に厚さ15cm程度の碎石の上に4~5cmのアスファルトを施工する簡易舗装が採用されたことにより舗装延長を急激に伸ばすことができた。一方コンクリート舗装は、空港のエプロン（駐機場）や港湾のコンテナヤード、

トンネル内の舗装（耐久性と白い色による照明設備の節約）といった限られた場所でのみ使われるようになり、全舗装に占める割合は現在に至るまで5%となっている。

1. コンクリート舗装の現状

かつてはコンクリート舗装が一定割合存在した

しかし、初期コストが高い、維持修繕が困難、騒音等の理由でアスファルト舗装に置き換わってきた



※ 道路統計年報、全国道路利用者会議

4

(公社)日本道路協会

世界各国でのコンクリート舗装の割合は道路統計の取り方で異なるが概ね日本よりも高い。米国では高速道路（インターライトハイウェイ）の15%がコンクリート舗装というデータがあるが、生活道路まで含めると93%がアスファルト舗装というデータもある。日本と条件が似通った韓国では高速道路の60%がコンクリート舗装を採用しているようである。アジアではアスファルトの精油所を持たない国が多くアスファルトが輸入品となるため自国で生産できるセメントを使ったコンクリート舗装を差採用する国が多い。フィリピンでは新設の道路はコンクリート舗装とすることとしている。

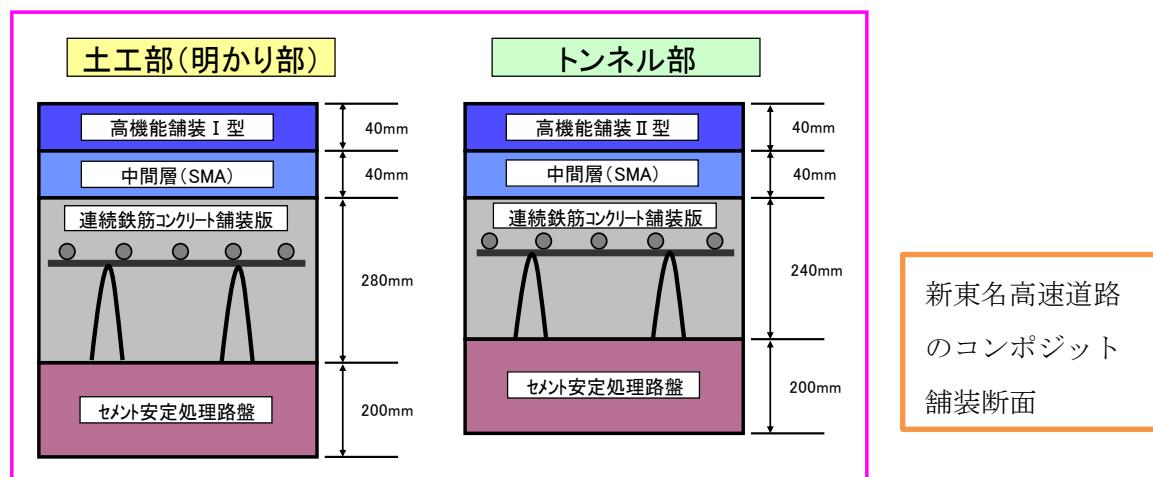
日本でも①世界的な原油価格の上昇に伴うアスファルト価格の高騰②南シナ海などが封鎖された場合の原油の供給ストップ③コンクリート舗装施工技術の継承（技術者不足）などを懸念して、道路工事の設計にあたって必ずアスファルト舗装とコンクリート舗装を比較検討するように設計コンサルタントに通達を出しているが、それでもコンクリート舗装が増えていないという現状がある。これは名古屋でコンクリート舗装が活用されている理由にもつながるが、施工後補修が必要になったときに片側2車線道路では工事にあたって1車線を工事施工箇所とし、もう1車線をコンクリートミキサー車の材料供給に使用しなければならず、反対側の車道を片側交互通行とするなどの対策が必要になると利用者の影響が大きいことが最大の問題点となるためである。一方、名古屋でコンクリート舗装が採用されている道路は片側3車線以上あるため（実際には前述の幹線道路の幅員は50m以上とするという計画により名古屋の道路は片側4～5車線が多い）、交通を確保しながらの工事が可能となる。名古屋の道路率は政令都市の中でも群を抜いて高く、前述した戦後の復興計画の成功が名古屋の道路インフラの高い耐久性をもたらしていると言っても過言ではないだろう。

4. 再び名古屋の道路について

このように整備されてきた名古屋の道路であるが、現在でも国道1号、19号、22号、41号などを管理する名古屋国道事務所管内の道路の30%はコンクリート舗装であり、維持費が小さいことが報告されている。しかしながら、コンクリート舗装の欠点として①騒音が大きい②経年と共にすべり抵抗が小さくなることがあり、名古屋国道事務所では交差点はコンクリート舗装とし、それ以外の直線部は下層をコンクリートとしたうえで、上層約10cmをアスファルト舗装とする複合舗装（Composite Pavement: コンポジット舗装）を一部の舗装に適用した。具体的には国道19号（伏見通）の西大須交差点から金山付近までで、一見交差点以外はアスファルト舗装に見える。この片側5車線の改修工事のうち山王通との交差点（古渡交差点）前後の工区を以前私が勤務していた舗装会社が受注し施工にあたった。当時私は名古屋地区の統括工事課長であったが、交差点部のコンクリート舗装は日々交通を通して工事となるため交差点内を記憶では30以上に分割し少しづつ新しいコンクリートにしていくという非常に手間のかかる工事であった。これ以外にも国道22号のコンクリート舗装で騒音・振動が大きいという苦情解消のためにコンクリート版を2cm程度削った上にアスファルト舗装を施工するという工事も行っている。この区間も見た目にはアスファルト道路と見えると思われる。

名古屋国道事務所管内のコンクリート舗装は現在でもほぼ健全な状態で維持され、改修工事でも再度コンクリート舗装に改修されている。面白いのは通常コンクリート舗装表面はすべり止めのため車両進行方向に直角にほうき目（刷毛で筋をつける）が施工されるが、国道1号線の一部のコンクリート舗装表面は車両走行方向に沿ってほうき目が施工されている部分がある。最初は施工ミスかと思ったがどうやら騒音対策としてそのようにしているようである。この点も非常に珍しいことで名古屋を知らない舗装技術者は皆面白がる。

なお、伏見通のコンポジット舗装の構造は、新東名、新名神の舗装にも使われ、耐久性と走行快適性のどちらも優れた舗装となっている。



一方、名古屋市が管轄する道路の一部もコンクリート舗装であったが、道路の中央部の舗装の下部に電線などを収納する共同溝（これにより電柱をなくせる）の施工後はコンクリートではなくアスファルト舗装に打ち換えるケースが多くあり、錦通や田代本通りなどが現在はアスファルト舗装となっている。

5. おわりに

道に関する歌詞を持つ歌は多い。その中で舗装に関わる歌詞としては岡本真夜 “Tomorrow”の「アスファルトに咲く花のように」は良く知られていると思う。アスファルトは粘弾性体の性質を持ち、その硬さは温度と載荷時間の関数となる。すなわち載荷時間が長いゆっくりとした力には弱い。そのため車が高速で走る（載荷時間が短い）道路では変形が少なくわだちも起きにくい。一方渋滞する道路や信号交差点ではわだちが起きやすいという性質がある。ゆっくりと成長する植物がアスファルトを突き抜けて育つということもよくある現象である。



交差点でのわだち



ど根性大根

道という言葉であれば、非常に多くの歌になっている。故郷へ向かう郷愁を歌う歌「ジョンデンバー:Country Road」、愛する人のもとへ向かう道を歌う歌「ビートルズ:Long and Winding Road」をはじめ「中央フリーウェイ」「銀色の道」などなど枚挙に暇がない。

のことから道路は生活に一番近い土木構造物と言えるだろう。ヨーロッパの各国の道路研究所が集まって作っているフォーラムによれば、道路は現在第5世代（5G）にあるとのことである。

第一 橋をかける

第二 舗装をする

第三 道路を滑らかにする

第四 道路をつなげる（ネットワーク）

第五 道路を多機能にする

現在、世界では道路の機能としては路車間情報などの情報を伝える、自動運転をサポートする、電気自動車の走行中の給電、地中熱との熱交換システムによる冷暖房機能などが検討されている。道路での発電も検討され実用化も間近である。



太陽光発電道路 Wattway (フランス)

以上、長々と道にまつわる話を書いてきた。大学卒業以来 45 年以上、道路建設に携わり、いろいろと世界の道路も見てきたが、名古屋の道路は車道のみならず歩道の広さも含めて、道路空間の確保の面で世界の大都市とも肩を並べることのできるものであり、先人たちの知見に敬意を表するものである。

○編集後記

コロナ禍前の Agora 第 30 号 (2021.1.4) を最後に、久しく途絶えていた団内誌の Agora 第 31 号をようやく発行することができました。ひとえに、寄稿していただいた方々や編集委員のさん (B1 福井稔、B1 西島忠司、T2 小野幸義さん) の尽力によるものと思います。

今後とも団員の皆さんの投稿をお待ちしています。

編集委員長 T1 鬼頭幸男

